



健康寿命延伸都市・松本

平成２２年度常任委員会テーマ調査研究

「松本市のスケート文化の継承について」

調査研究結果報告書

教育民生委員会

目 次

1	はじめに	P 1
2	調査研究の経過	P 1
3	調査研究の内容	P 2
4	調査研究のまとめ	P 3
5	おわりに	P 4
	委員名簿	P 5

[添付資料]

別紙 1	委員会の意見	P 7
------	--------	-----

[会議資料等]

別紙 2	平成22年 7.月26日開催分	P 9
別紙 3	10月15日 //	P13
別紙 4	12月22日行政視察	P19

1 はじめに

松本市は、昭和44年に浅間温泉国際スケートセンターを建設しました。平成21年度末の競技会受入れ終了までの40年間には、多くの国際・国内競技会が開催され、大勢の選手によって数々の記録が誕生し、松本地域だけではなく、全国のスケートの普及・発展を支えてきました。

しかし、近年では、スキーやスノーボード等の他のウィンタースポーツの増加や周辺スケート施設の充実等により、利用者数は約15,000人とピーク時の4分の1となりました。

市は、スケート人口の減少とともに、同センターの老朽化に伴う施設の維持・改修経費が高額となること及び各種競技会が平成21年度で終了することにより施設を廃止することとしました。

本委員会は、施設廃止後のスケートができる環境の変化を憂慮し、松本地域においてスケートをどのように普及していくのかということについて調査研究しましたので、その結果について報告をするものです。

2 調査研究の経過

平成22年 5月19日	調査研究のテーマ案を委員から募集
6月18日	調査研究テーマを決定
7月13日	調査研究の進め方を協議
26日	調査研究テーマを調査研究
8月18日	調査研究テーマを調査研究
9月16日	調査研究テーマを調査研究

10月15日	調査研究テーマを調査研究
11月9日	調査研究テーマを調査研究
24日	委員協議会でスケートセンター廃止を協議 (集約 報告を受けた)
12月10日	委員会でスケートセンター廃止関係条例を審査 (委員会審査結果 可決すべきもの)
15日	12月定例会でスケートセンター廃止関係条例を 可決 (スケートセンターを廃止)
22日	浅間温泉国際スケートセンター及び岡谷市やまび こスケートの森を視察
1月13日	調査研究テーマを調査研究
2月9日	調査研究テーマを調査研究
21日	調査研究テーマを調査研究

3 調査研究の内容

本委員会は、市の浅間温泉国際スケートセンター廃止の方針を受け、施設を廃止することの是非及び施設廃止後のスケートができる環境整備について調査研究をしました。

調査研究の内容は、浅間温泉国際スケートセンターの現状（利用状況、収支状況、施設現況等）及び県内他施設の状況（施設内容、利用状況、収支状況、今後の方針等）について、委員が作成した資料の説明・質疑をもとにスケートを取り巻く状況を理解するとともに、施設の廃止及びスケートができる環境の整備について協議をしました。

また、本委員会の調査研究と並行し、平成22年11月には、市から施設

廃止等に関する協議があり、12月定例会では、同センター関係条例改正案提出され、審議の結果、施設は廃止されることとなりました。

定例会閉会後は、施設廃止後のスケートができる環境整備調査の一環として、浅間温泉国際スケートセンター及びやまびこスケートの森（岡谷市）の現地視察を行い、小学校スケート教室の受入れ態勢や松本市、岡谷市の両施設の運営状況等について視察調査をしました。

4 調査研究のまとめ

「松本市のスケート文化の継承について」委員からの意見等をまとめましたので、次のとおり報告します。

〔まとめ〕

浅間温泉国際スケートセンターは、中信地区内で唯一の400メートルトラックを有する施設であり、各種大会の開催だけではなく、将来のスケート選手を目指す選手の練習やスケート愛好者の一般利用がされてきました。

本委員会では、施設を可能な限り活用されたいとの意見がある一方で、競技施設としての役割は終了しており、廃止はやむを得ないとの意見もある中、施設は廃止することとなりましたが、廃止後については、スケートのできる環境が大きく変化すると考えられることから、今後、スケートを普及・発展させるため、次の事項について、引き続き研究・検討が必要と考えます。

- (1) 松本地域近隣市町村との広域的な連携による代替施設の整備
- (2) 周辺市町村の既存スケート施設の活用

5 おわりに

松本地域では、古くからスケートが親しまれています。浅間温泉国際スケートセンターは、設置場所の地理的・気候的条件を活かし、42年間の長きにわたってウィンタースポーツの代表格であるスケートの振興に寄与してきました。

しかし、今般のスケートを取り巻く経済環境の変化や趣味の多様化等によって利用者は減少傾向にあり、市は、スケート人口の減少とともに、施設の収支が不採算であること及び老朽化に伴う高額な維持改修経費の負担等を避けるため同センターを廃止しました。

今後、市はスケートのできる環境の整備や廃止施設の後利用を研究することとしています。研究に当たっては、これまで同センターが残してきた華やかな歴史を後世に伝える取組みとともに、スポーツの普及・発展という幅広い観点を見据え、スケートの競技人口と余暇利用人口の双方を増やすための方策を検討することが肝要と考えます。

本委員会は、松本地域のスケート文化を継承するため、スケートのできる環境整備に向けた市の積極的な取組みをお願いするものです。